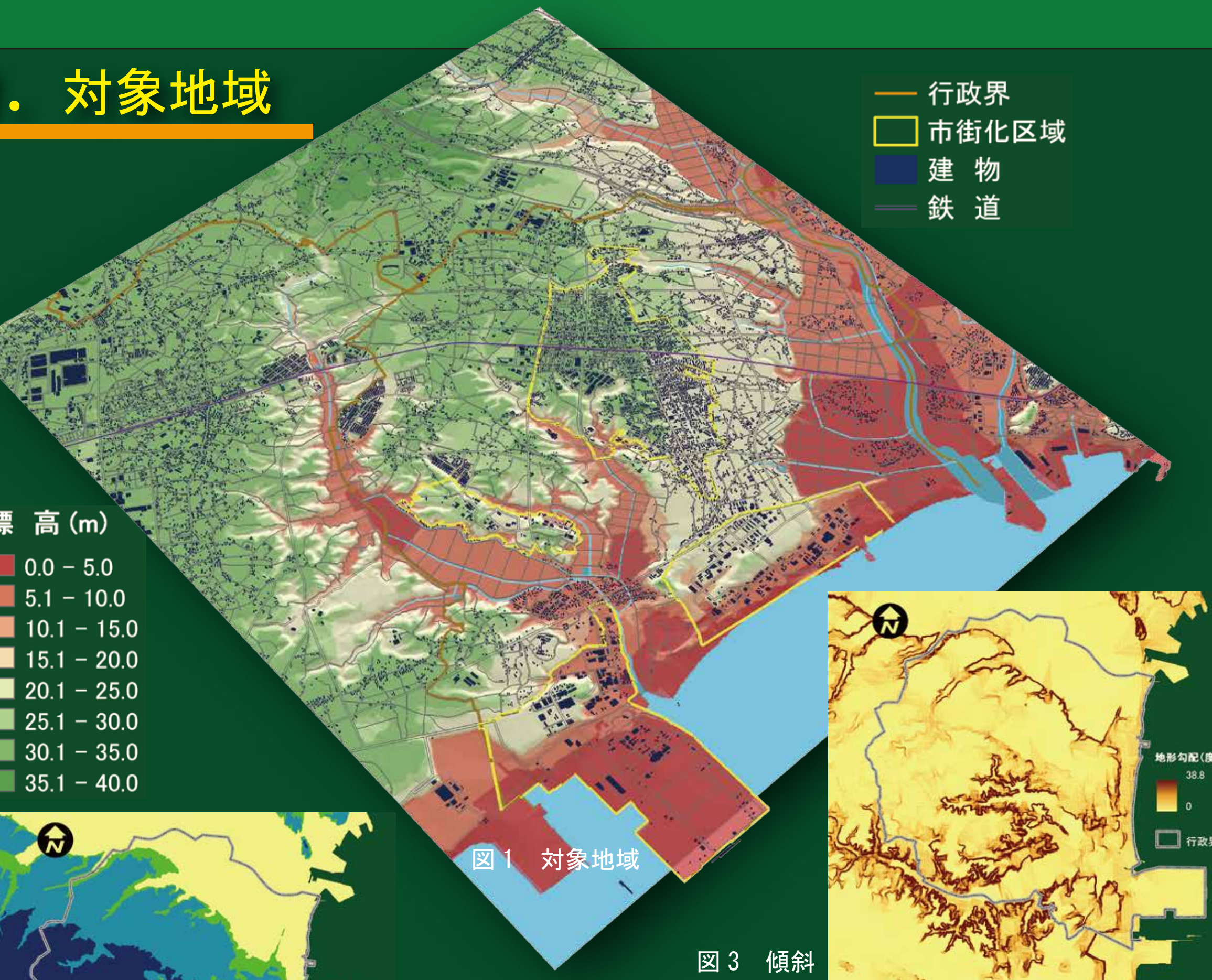


土地利用変化と文化資源の立地からみた景観特性の分析

～茨城県東海村におけるみどりのワークショップを事例として～

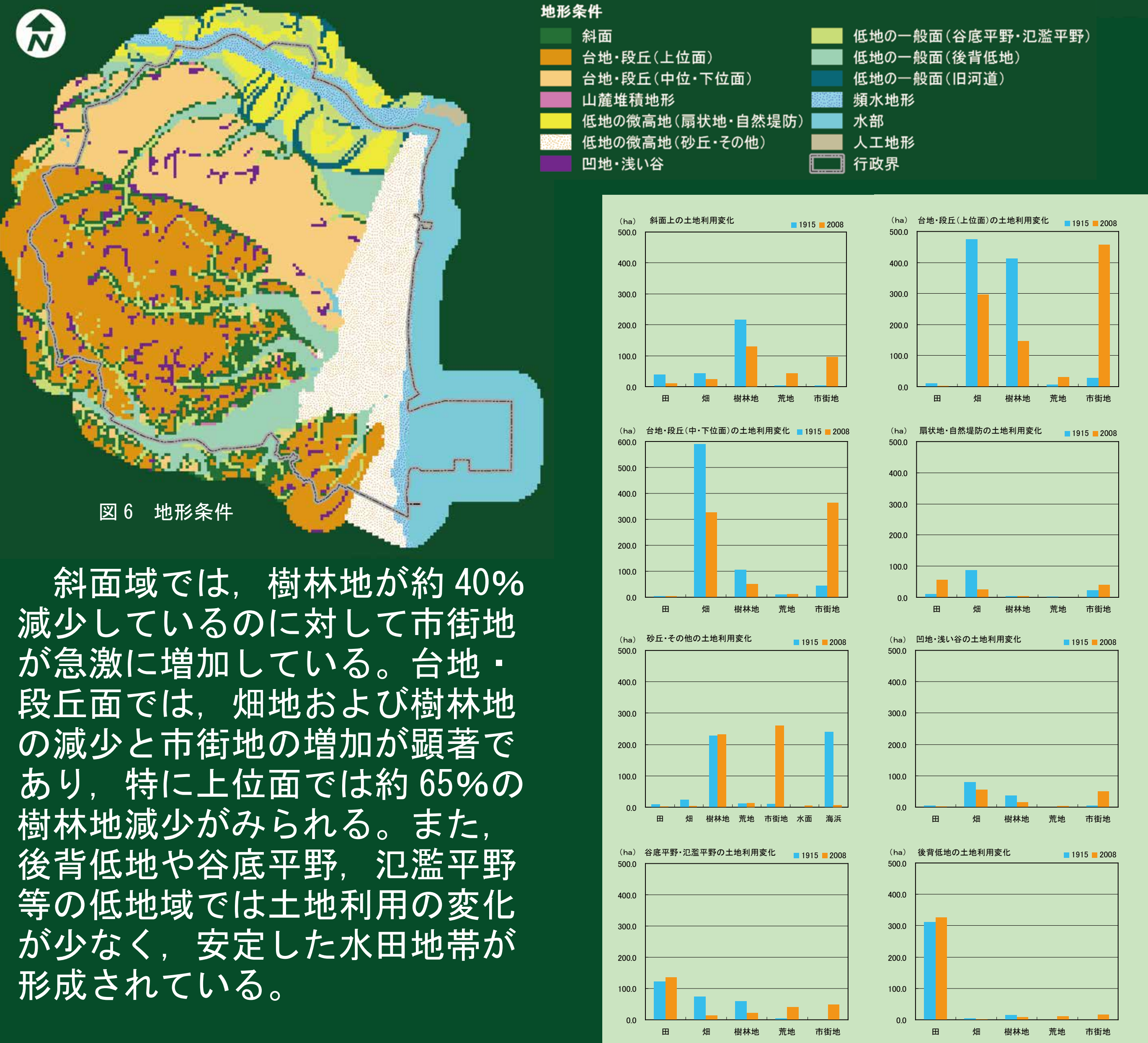
株式会社 中央地学

1. 対象地域

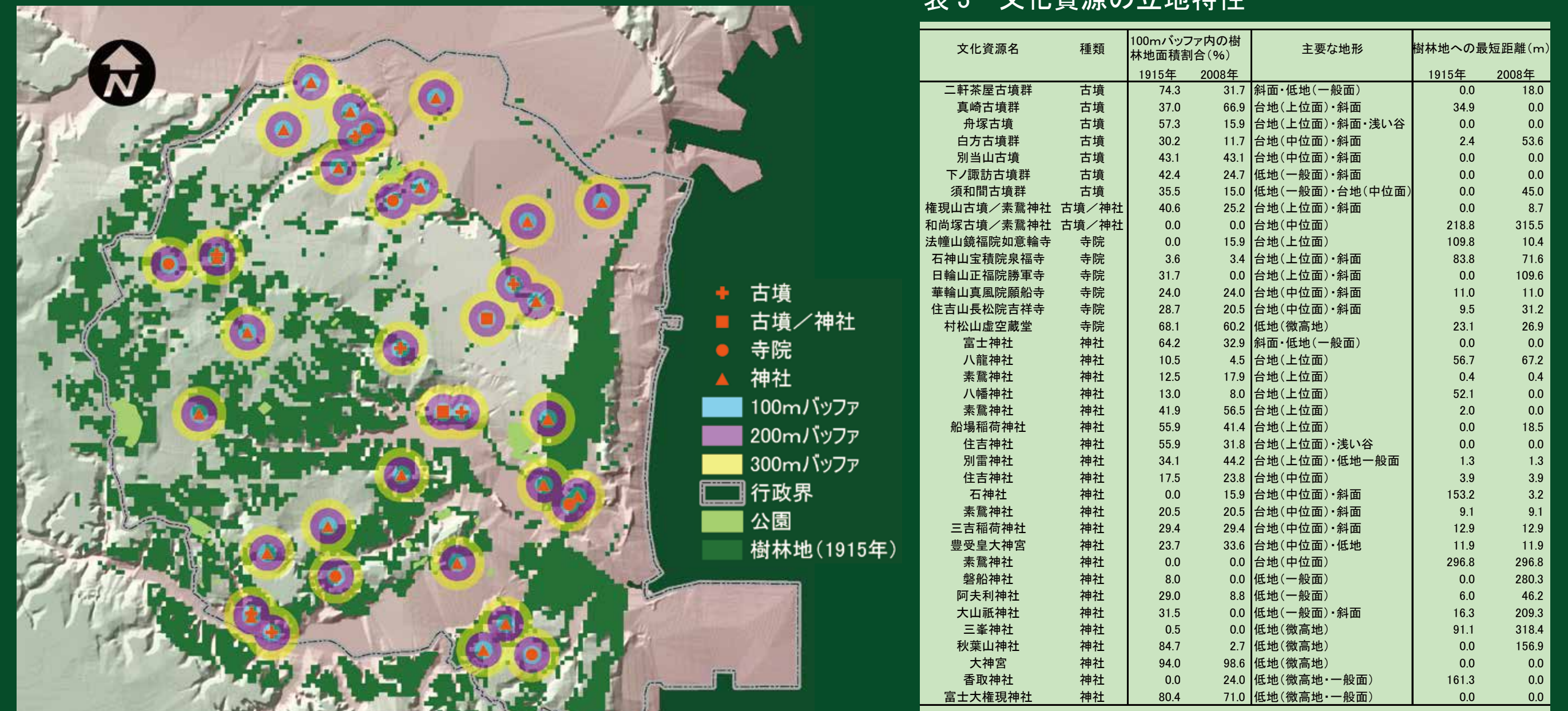


東海村は、東西および南北が約7.9kmと、ほぼ円形に近く、東は太平洋に面している。標高は最高点で40m弱と比較的平坦であるが、台地と低地域の境界は10m程度の崖地となり、入り組んだ谷津地形がみられる。

4. 地形条件と土地利用変化

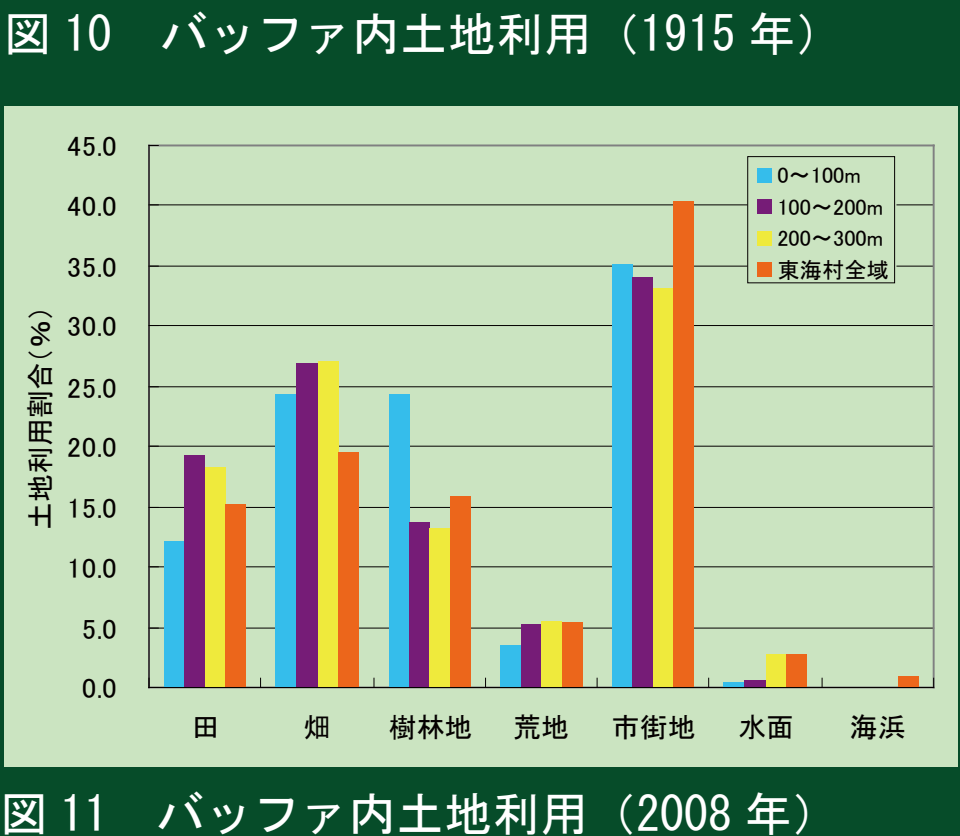
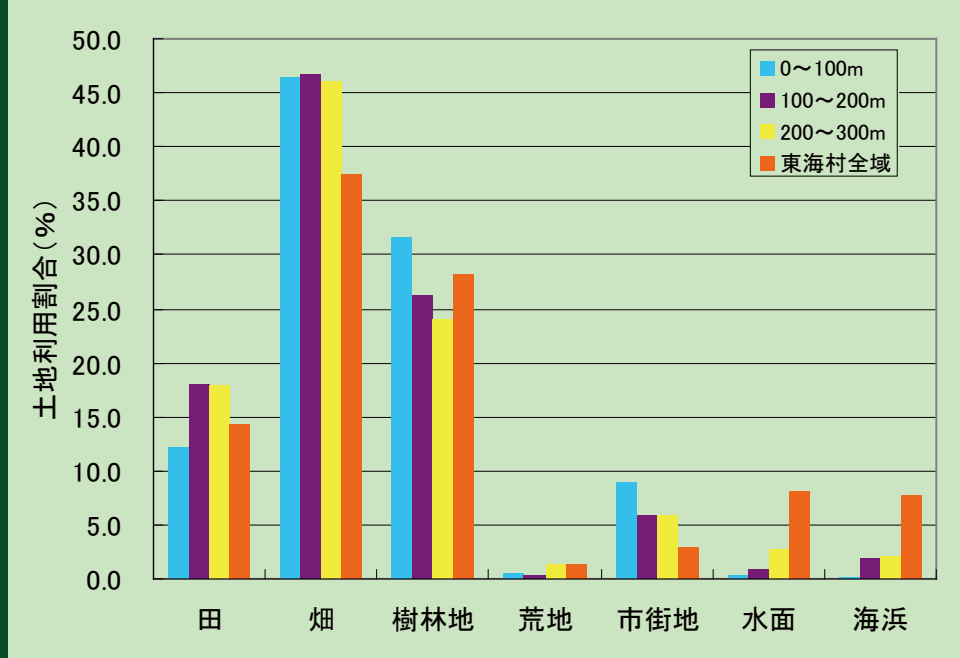


6. 文化資源の立地特性



東海村には、神社、寺院、古墳をはじめとした、文化資源が数多く存在する。文化資源周辺にバッファを生成させ、その立地特性を考察した結果、台地の上位面および中位面に位置する文化資源の大部分が、斜面域に近接して立地していた。また、文化資源周辺の土地利用を1915年と2008年で比較した結果、0～100mのバッファ内では、樹林地の減少割合が少なく、緑地が維持される傾向にあった。

文化資源名		種類	100mバッファ内の樹林地面積割合(%)	1915年	2008年	樹林地への近接距離(m)
二野宮古墳群		古墳	74.3	31.7	31.7	0.0
真盛古墳群		古墳	37.0	64.9	64.9	34.9
赤坂古墳		古墳	37.3	33.9	33.9	0.0
北方古墳群		古墳	30.2	11.7	11.7	2.4
別所山古墳		古墳	42.1	43.1	43.1	0.0
下ノ原古墳群		古墳	42.4	24.7	24.7	0.0
和向宮古墳群		古墳	35.5	15.0	15.0	0.0
和向宮古墳・東麓神社		古墳・神社	40.6	25.2	25.2	0.0
和向宮古墳・東麓神社		古墳・神社	35.0	0.0	0.0	218.8
石神山古墳群		古墳	3.6	15.9	15.9	109.8
石神山古墳群		古墳	31.7	0.0	0.0	0.0
石神山古墳群		古墳	24.0	24.0	24.0	11.0
住吉山古墳群		古墳	28.7	20.5	20.5	9.0
村山古墳群		古墳	68.1	60.2	60.2	23.1
八幡神社		神社	64.2	29.8	29.8	0.0
八幡神社		神社	10.5	4.5	4.5	56.7
八幡神社		神社	12.5	13.9	13.9	0.4
八幡神社		神社	13.0	8.0	8.0	52.1
八幡神社		神社	41.9	56.5	56.5	2.0
八幡神社		神社	55.9	41.4	41.4	18.5
八幡神社		神社	55.9	31.8	31.8	0.0
八幡神社		神社	24.1	44.2	44.2	1.2
八幡神社		神社	17.5	23.8	23.8	3.9
石神社		神社	0.0	15.9	15.9	103.2
石神社		神社	20.5	20.5	20.5	9.1
三吉神社		神社	29.4	29.4	29.4	12.9
三吉神社		神社	23.7	23.8	23.8	11.9
高麗神社		神社	0.0	0.0	0.0	296.6
高麗神社		神社	6.0	0.0	0.0	290.3
高麗神社		神社	29.0	6.8	6.8	44.9
大山神社		神社	31.5	0.0	0.0	16.3
三吉神社		神社	0.5	0.0	0.0	9.1
三吉神社		神社	64.7	2.7	2.7	154.9
大寺		寺院	94.0	98.8	98.8	0.0
東海神社		神社	24.0	24.0	24.0	101.3
宮土元聖神社		神社	80.4	71.0	71.0	0.0



2. 研究目的

本研究の目的は、土地利用変化と文化資源の立地の視点から地域景観の特性を把握するとともに、それらを視覚的に表現し、みどりのワークショップ等における市民参加の場面での情報共有化を図ることである。

3. 土地利用変化 (1915～2008)

使用データとして、1/25000旧版地形図および航空写真から、1915年(大正4年)および2008年(平成20年)の土地利用図(50mグリッドサイズ)を作成した。村全域で田は微増傾向にあるが比較的变化が少ない。一方、畑、樹林地、荒地では、それぞれ40～50%が市街地へと変化している。また、港湾での水面埋め立てや海浜での原子力関連施設の建設による市街地の増加も著しい。

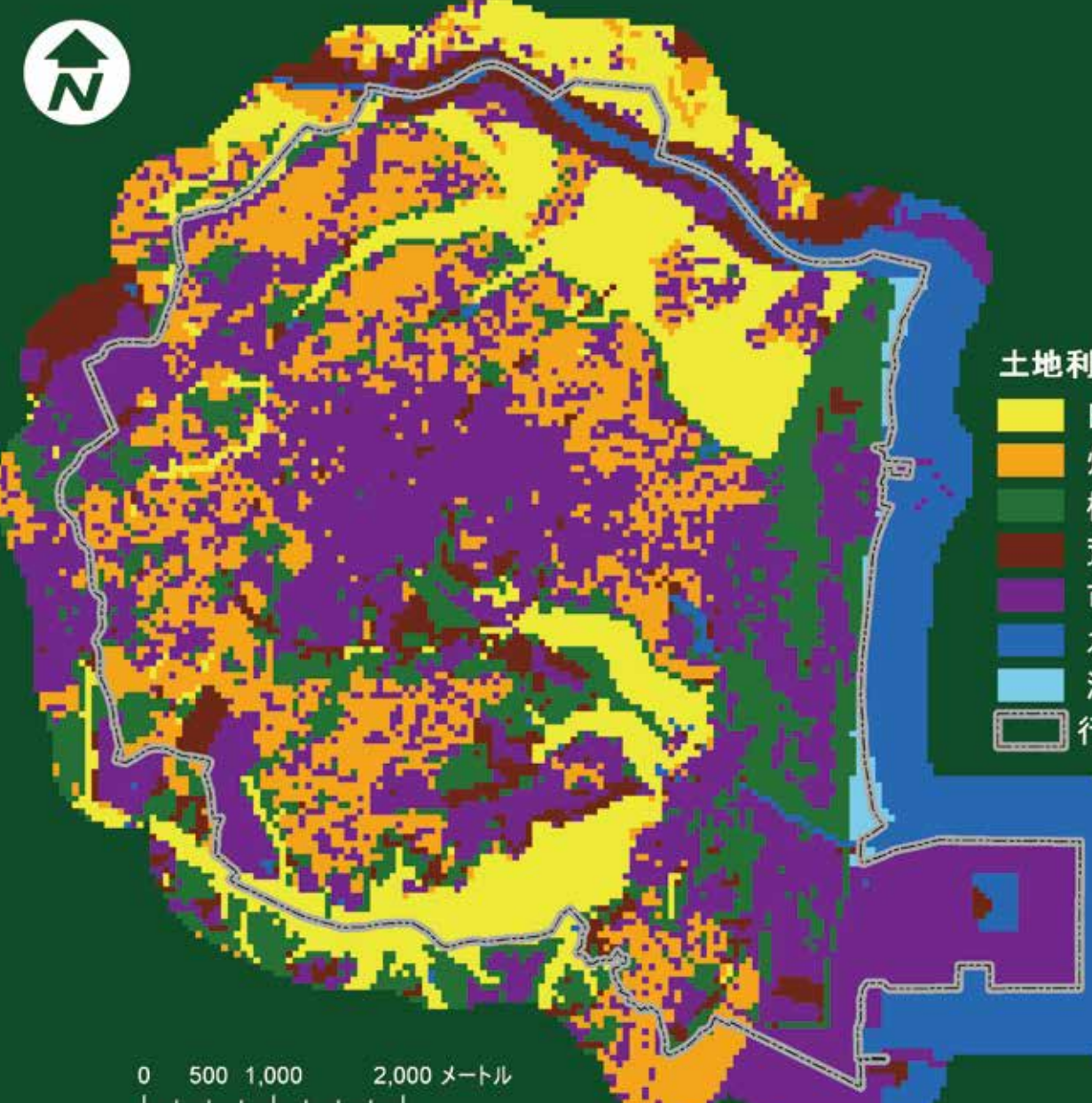
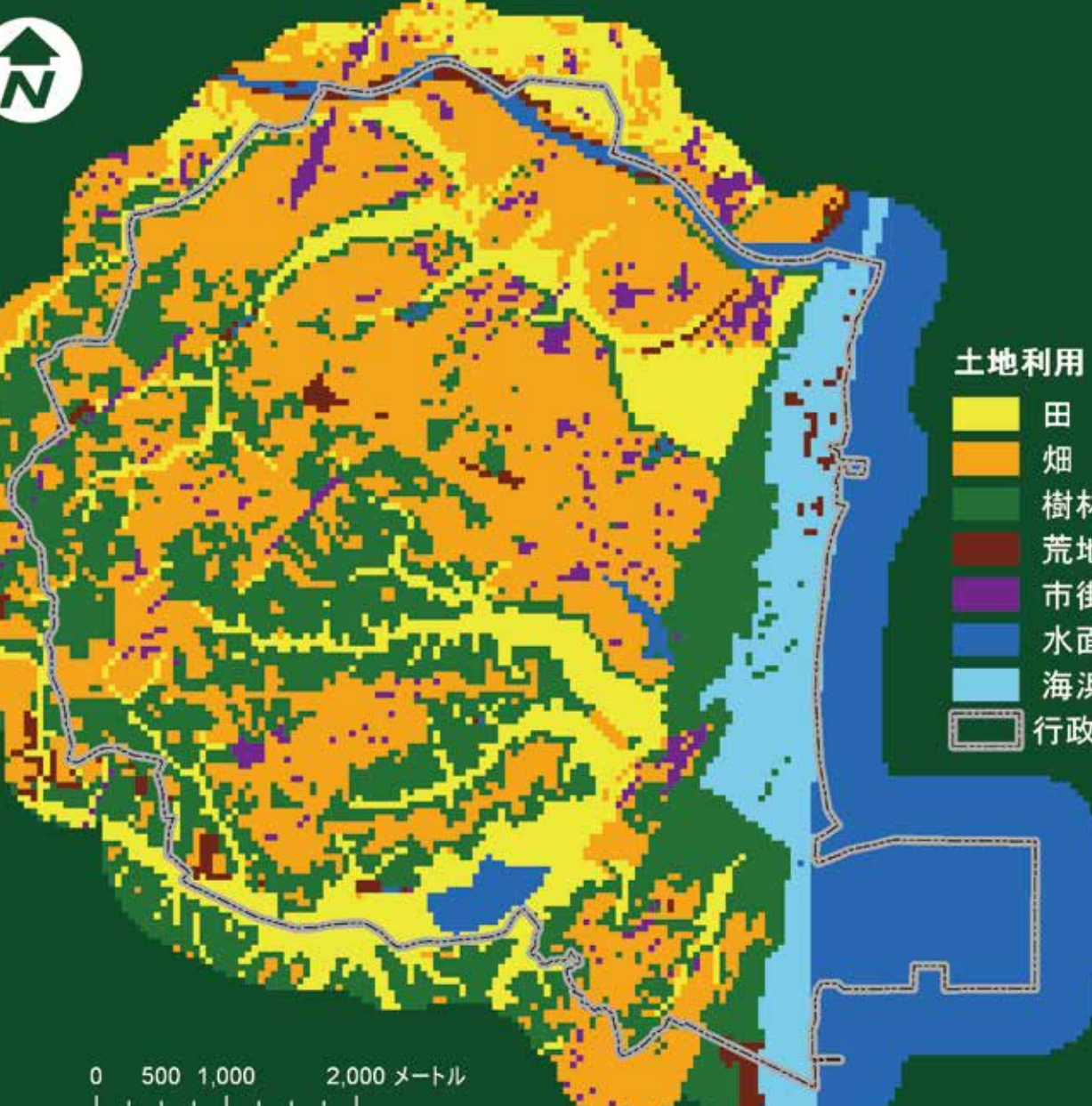


図4 土地利用 (1915年)

図5 土地利用 (2008年)

5. 地区別の樹林地変化

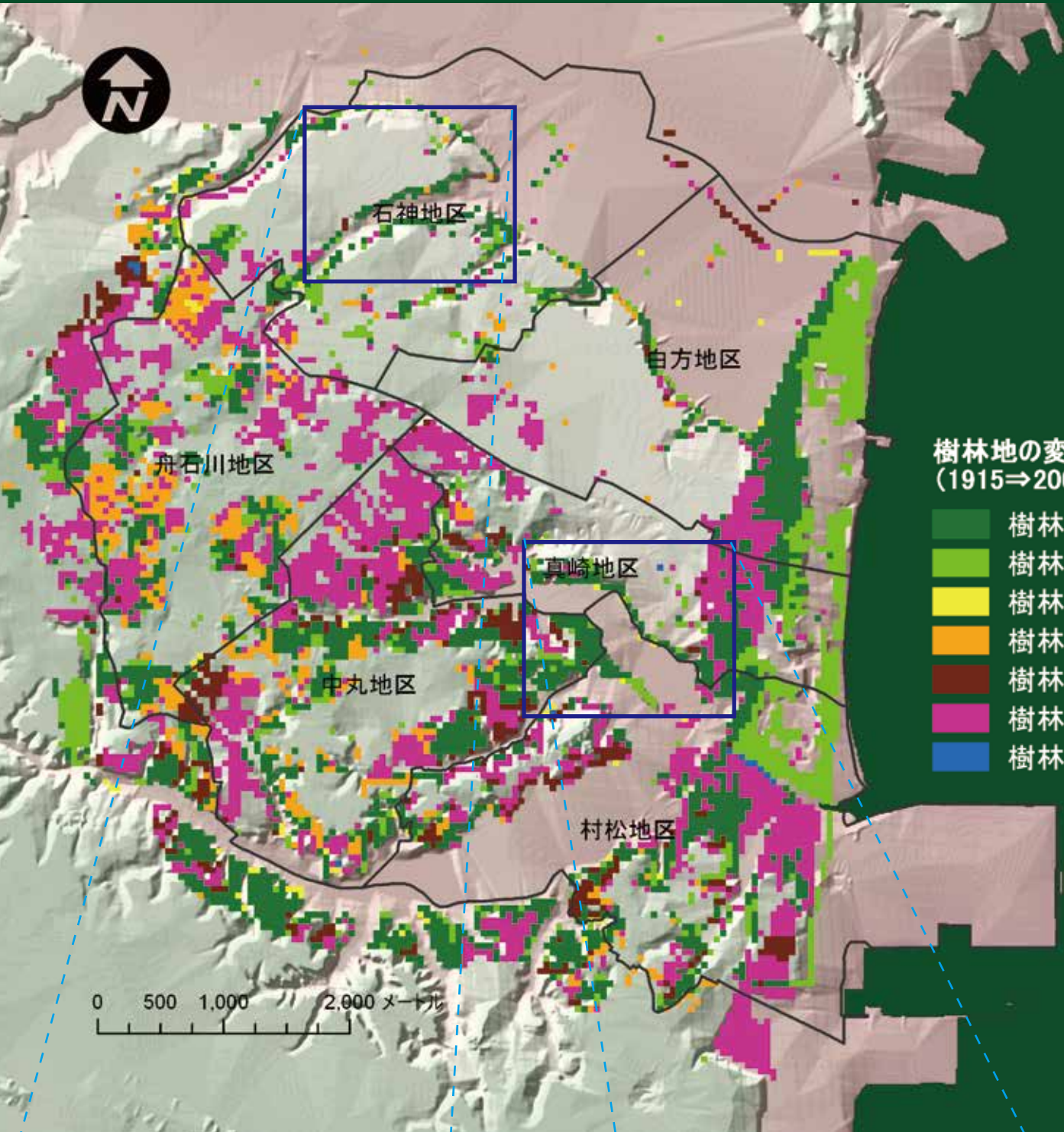
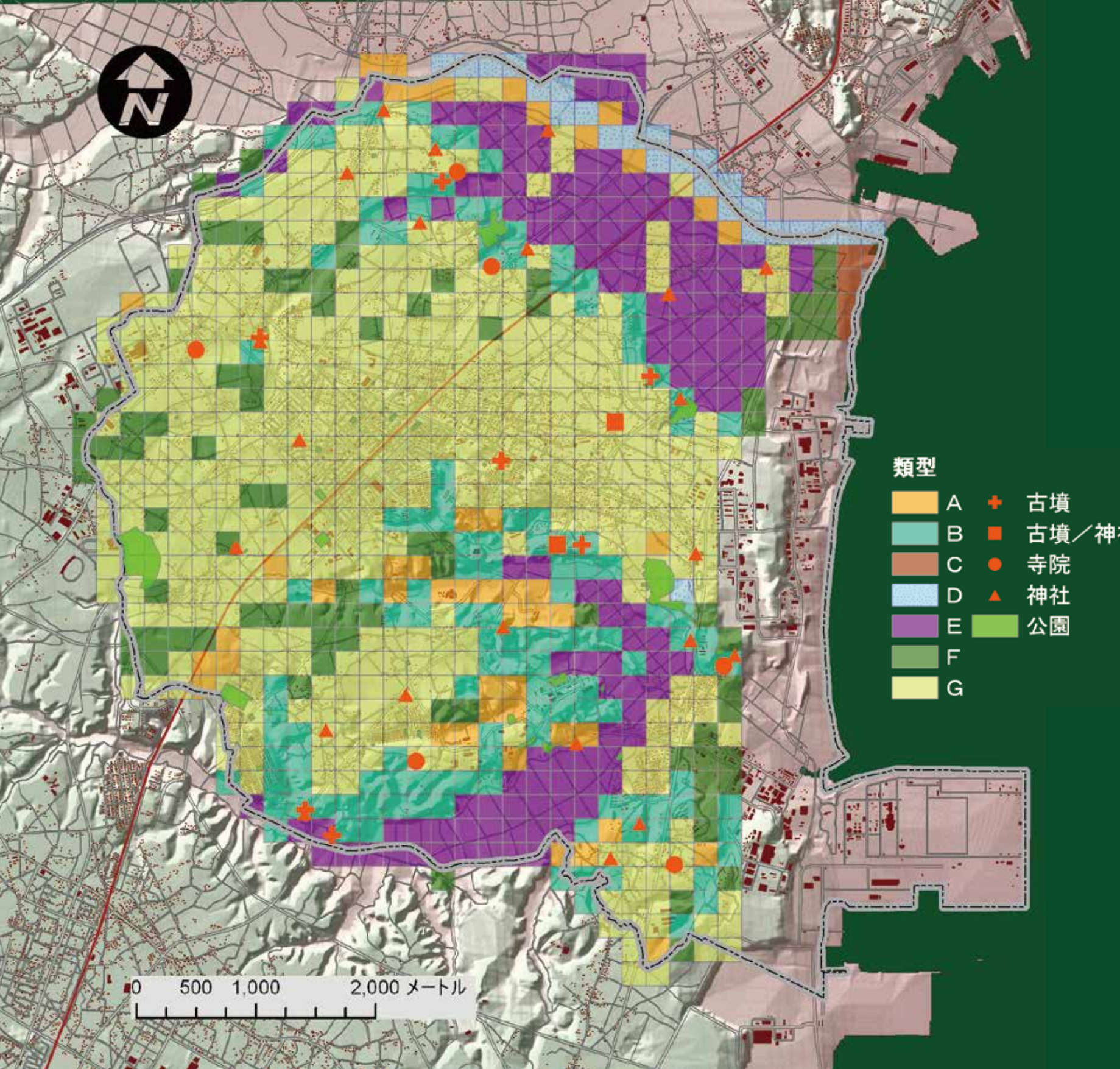


図8 樹林地の変化 (1915→2008)



7. 類型化による景観特性の把握



景観類型		標高(m)	勾配(度)	樹林地	文化遺産	公園	樹林地減少率(%)	田	畑	2008年	土地利用割合(%)	市街地	水面	海浜
A	16.50	3.41	120.26	506.52	455.72	-38.03	6.38	3.72	9.31	51.73	25.27	3.59	0.00	0.00
B	17.63	5.52	30.66	372.57	346.14	-12.12	20.50	14.73	31.30	7.20	25.76	0.52	0.00	0.00
C	3.09	1.47	51.24	780.07	851.86	37.50	0.00	0.00	37.50	0.00	18.75	43.75	0.00	0.00
D	4.79	0.30	414.91	621.67	731.57	-4.00	1.25	0.00	0.75	32.50	7.50	58.00	0.00	0.00
E	6.55	0.92	196.22	474.75	471.20	-1.61	63.39	3.84	3.17	1.74	7.37	0.49	0.00	0.00
F	22.97	1.84	186.25	663.40	477.36	3.16	4.89	16.04	57.81	2.86	18.45	0.15	0.00	0.00
G	25.93	0.95	149.09	522.52	726.40	-72.86	1.47	31.16	5.07	1.73	54.26	0.30	0.00	0.00

8. 保全と活用に関するまとめ

景観類型から地域の保全と活用について考察すると、主に斜面上に位置する【類型A】、【類型B】と、台地面上に点在する【類型F】を連続させ、東海村を取り囲む帯状の緑地帯の形成を図ると共に、台地面上に広く分布する【類型G】では、公園整備や街路樹等による緑化を推進し、樹林地の減少を抑える必要がある。一方、低地域の【類型E】では広大な水田景観を保全し、久慈川沿いの【類型D】から河口付近の【類型C】では、水辺空間の保全と共に、レクリエーション等の場としての活用が期待できる。